

[成果情報名] 富士五湖における漁業実態の解明

[要 約] 漁業者の最も重要な漁獲対象魚は、ワカサギであった。山中湖のワカサギの年間推定漁獲量は1,376kgで、ボート等利用者の推定釣獲尾数の方が約3倍多かった。漁獲魚の利用は自家消費がほとんどであったが、一部は民宿等へ1,861円/kgで販売されていたことから、流通経路の整備により、経済的価値の向上が期待できると考えられた。

[担 当] 水技セ・支所・大浜秀規

[分 類] 普及

[課題の要請元]

富士五湖の漁業協同組合、県庁花き農水産課

[背景・ねらい]

富士五湖では、ワカサギ、ヒメマス、ヘラブナ、そしてオオクチバス等の漁業が行われているが、その漁業の形態や漁獲量及び流通等に関する実態についてはほとんど明らかになっていない。そこで、富士五湖における漁業・遊漁及び漁獲・流通の実体を把握し、問題点を明らかにすることにより、今後行うべき技術開発や指導支援の方向を明らかにすることを旨とし、増殖事業実態調査、漁業実態調査、遊漁実態調査を行なった。

[成果の内容・特徴]

1. 富士五湖の漁協の遊漁料収入は、平成11～14年度をピークに減少していた。現在でも引き続き減少している漁協と、回復傾向にある漁協があった。
2. 本栖湖を除く湖で漁業者の最も重要な漁獲対象魚は、ワカサギであった。どの湖でもワカサギ、コイ、フナ、ウナギ、ヒメマスの5魚種で対象魚種の9割以上を占めていた。
3. 漁業者による年間推定漁獲量は山中湖のワカサギが1,376kgと突出して多かった。
4. 漁獲魚の利用は家族による自家消費が56.6%で、無料で配るを加えると82.0%を占めていた。また民宿、旅館、食堂、魚屋などへの販売も8.2%あった。
5. 民宿等への販売価格は、平均がウナギ2,833円/kg、ワカサギ1,861円/kgであった。
6. ボート等を利用した遊漁者の対象魚種は、山中湖ではワカサギが64.5%、オオクチバスが31.3%、河口湖ではオオクチバスが88.0%。オオクチバス漁業権のない精進湖及び本栖湖でも各々20.9%、10.3%がオオクチバスを対象として遊漁をしていた。
7. ボート等利用者の推定釣獲尾数は、山中湖のワカサギが219万尾と突出して大きく、精進湖のワカサギ39万尾、ヘラブナ21万尾、西湖のワカサギ16万尾と続いていた。山中湖のワカサギ釣獲量は漁協組合員の推定年間漁獲量の約3倍であった。
8. 河口湖で釣獲されたオオクチバス最大全長は増加傾向にあった。平成17年以降オオクチバスを一日に20尾以上釣る人が減ったのは、放流量が激減したためと考えられた。
9. 山中湖のワカサギについては、流通経路を整備することにより、経済価値の向上が期待でき、そのためには今後行政の支援が必要と考えられた。

[成果の活用上の留意点]

流通経路の整備や漁場の有効利用等については、漁業調整上の問題もあることから県行政等との連携を保ちつつ実施する必要がある。

[期待される成果]

山中湖等におけるワカサギなどの有用魚種の経済価値向上による有効利用が図られる。

[具体的データ]

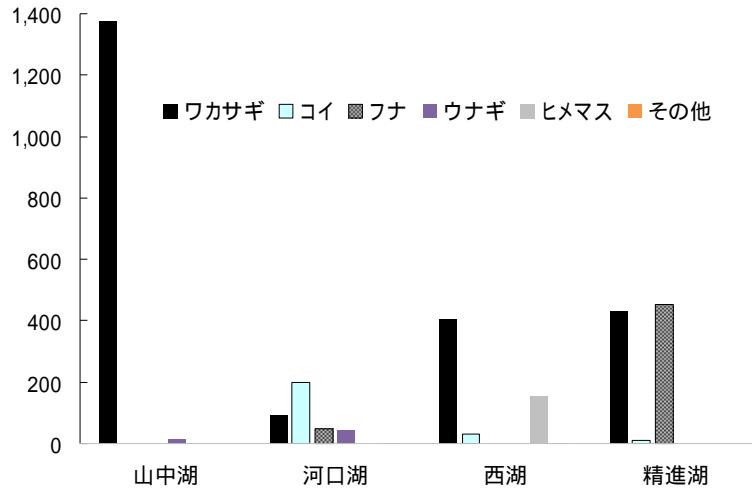


図 漁業者による年間推定漁獲量 (kg)

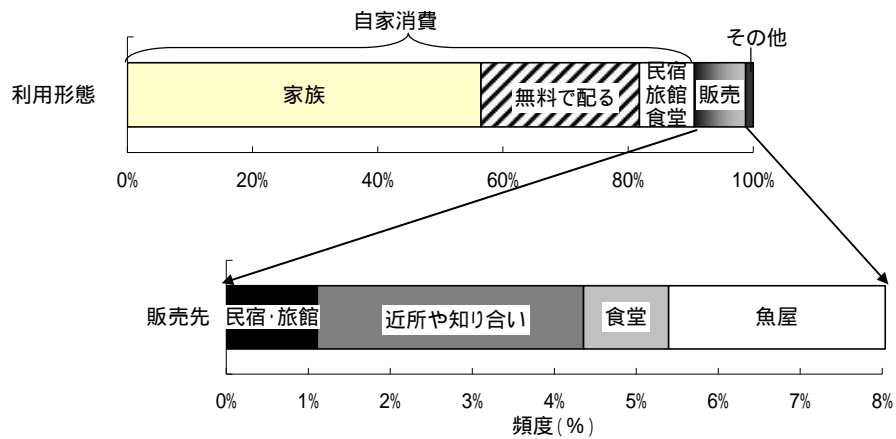


図 漁獲魚の利用形態

[その他]

研究課題名：富士五湖における漁業実態の解明

予算区分：県単

研究期間：平成 23～24 年度

研究担当者：大浜秀規